

現地審査チェックリスト

日本ジオパーク委員会

1. ジオサイトと保全

- ・ 申請書に記載されたテーマ，ストーリーが実際のジオサイトと遊離していないか。ジオサイトから観光客がテーマ，ストーリーを感じられるようになっているか。
- ・ 歴史・伝統文化のサイトについてジオとの関わりを意識した見せ方が考えられているか。
- ・ ジオパークの運営者や関係者にジオパークのテーマ，ストーリーが浸透しているか。
- ・ 世界遺産登録地、ラムサール条約登録湿地、人間と生物圏計画（MAB）登録地、自然公園法による指定地域、文化財保護法による名勝・天然記念物・文化的景観・伝統的建造物群、森林法による保安林、また、国有林などがジオパークの範囲内にある場合、それを所管する諸機関との間でそれらの保全と活用に関して連携が取れているか。
- ・ 関係者のジオサイトの保全に対する意識はしっかりしているか。
- ・ 拠点施設等での、他地域産の鉱物・化石などの販売の状況、あるいは持続不可能な地域内の鉱物・化石の販売の有無の確認。

2. 教育研究活動

- ・ 関係学術研究機関の研究者と実際に話をし、ジオパークに対する協力状況を確認する。
- ・ これまでの市民教育プログラム等の実績について、資料を提示してもらって確認する。
- ・ 出版物・ガイドブック，教材などを実際に見て、内容をチェックする。
- ・ 教育プログラム、教材、各種出版物などを個別の様々な団体が作るのではなく、ジオパークとしてその内容をきちんとコントロールしているか聞く。

3. 管理組織，運営体制

- ・ 運営組織の体制に関しては以下のような点を確認する。
 - ・ ジオパーク全体の予算、人の配置などを管理するのは誰か。
 - ・ 外からの問い合わせに一つの窓口で対応できるか。

- ・ 学術面、教育面の担当者はそれぞれ誰か。
- ・ ガイド組織、ガイドを教育するシステムの有無、現状。
- ・ 地域住民のジオパークへの参加を促す仕組みはあるか。地域住民、地元 NPO 等の活動をコーディネートする担当者は誰か。
- ・ 各分野の担当者のマンパワーは十分か。
- ・ ジオパークが複数自治体にまたがる場合、相互の協力関係は十分か
- ・ ジオパークが自治体のある一部署の仕事ではなく、地域全体の地域振興のツールとして広く活用されているか。
- ・ 事前に JGC 委員やほかのジオパーク関係者を呼ぶなどして、ジオパークの取り組みを積極的に学び、全体の方針に反映させているか。
- ・ 自然公園、文化財、国有林、砂防地域などを管理する国の出先機関等関連諸機関との協力関係はどうか。
- ・ 中期計画、長期計画、予算計画について説明を求める。
- ・ 住民に十分なジオパークの普及が行われているかを確認するため、通りかかった住民の方にジオパークについて尋ねてみる。
- ・ 事前に Website を確認しておく。ジオパークの訪問者としてどのような人を想定し、そこへ向けてどのような広報を行っているか、今後行うか、説明を求める。

4. 地域の持続的な発展とジオツーリズム

- ・ ジオツアーの実績・内容を確認する。一過性のイベントではなく継続して続けていける仕組みを考えているかどうか説明を求める。
- ・ ジオツアーを行っているガイドに実際にガイドをしてもらう。
- ・ 拠点施設に観光客がジオサイトを見て回る際に参考になる展示があるか確認する。
- ・ 各拠点施設の職員が十分にジオパークについて理解し、施設間の連携を十分に取ろうとしているか、確かめる。
- ・ 説明板、ガイドマップの整備状況とそのわかりやすさを調べる。説明板未整備のジオサイトについて今後の整備計画を確認する。
- ・ 観光協会、旅行会社との協力関係を確認する。観光協会の人にもできれば面会して協力の現状と今後の計画について聞く。

5. 国際対応

- ・ 多国語パンフレットがあれば中身を確認する。
- ・ 外国語対応のガイドがいる場合、実際に話をしてもらい実力を見る。

6. 防災・安全

- ・ 遊歩道等における安全対策を現地で確認する。
- ・ ハザードマップが必要な地域に関しては、ハザードマップの有無と内容、活用状況を確認する。住民・観光客にどのような防災対策をしているか説明を求める。
- ・ 防災へのジオパークの活用に関する考え方を聞く。